

活動報告書

報告者氏名：大野 寿久 所属：広島県立庄原特別支援学校 記録日：平成 24 年 11 月

【対象児（群）の情報】

・ 学年

高等部第 1 学年の男子生徒 1 名，第 2 学年の男子生徒 1 名，女子生徒 2 名，第 3 学年の男子生徒 4 名（全 8 名）

・ 障害名

知的障害

・ 障害と困難の内容

言葉だけでの指示理解が難しく，自分の思いや意見を伝える方法は，文章や単語での言葉，指差しとさまざまである。また，学習したことが断片的な記憶になりやすい。

【活動目的】

・ 当初のねらい

就労に向けて以下の 3 つの力を身に付けさせる目的で iPad を活用した。

①授業全体の流れの中で報告・連絡・相談ができる。

②作業全体の見通しをもち，自ら目標を立て，達成に向けて作業内容を確認しながらスムーズに作業ができる。

③一授業ごとの記録を残し，作業の進捗状況の管理をし，次時へ繋げることができる。

・ 実施期間

平成 24 年 4 月～平成 24 年 10 月

・ 実施者

大野 寿久

・ 実施者と対象児の関係

教科担当

【活動内容と対象児（群）の変化】

・ 対象児（群）の事前の状況

○報告・連絡・相談のタイミングが理解できていない生徒が多い。

○作業全体の見通し，作業内容，作業目標，作業場所を意識できておらず，一つ一つの作業で行動が途切れ，教師の促し等がないと次の作業への行動が滞る生徒が多い。

○週に 2 回の授業のため，一回の授業ごとで作業が完結され，次の授業では前回の作業内容を忘れている生徒が多い。

・活動の具体的内容

以下の5つのアプリを活用し、授業を展開した。

- ①作業全体の見通しをもたせるために「shop-shop」（本時の流れや作業内容、作業目標、報告・連絡・相談のタイミングを授業の始めに自らで記入し、一つの活動終了ごとにチェックをさせ、スケジュール管理アプリのように活用）を使用。
- ②作業場所の確認のために「neu Kids Draw」（農場の配置地図を取り込み、本時の作業場所を手書きで円で囲む）を使用。
- ③文字の入力がキーボードで難しい生徒用に「White Board」（手書きで本時の作業内容や目標などを設定）を使用。
- ④作業の進捗状況の管理に「Photo-sort」（生徒が授業終盤に日にちごとにフォルダを作成し、スクリーンショットで shop-shop, neu Kids Draw, White Board の内容を取り込む、また活動写真を場面ごとに教師が撮影しておき、フォルダ内へ入れ、これを基に教師へ作業の最終終了報告をする。授業の振り返り、次時の授業始まりにも活用）を使用。
- ⑤作業時間の管理や見通しをもたせるために「Conference Timer」（タイマー）を使用。

・対象児（群）の事後の変化

一つ一つの作業で行動が途切れ、教師の促し等がないと次の作業への行動が滞る生徒が少なくなり、自ら決めた目標の達成へ向けて作業内容を確認しながら一人でもスムーズに作業ができる生徒が増えた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

簡単な操作で作業全体の見通し、作業内容、作業目標、作業場所、報告・連絡・相談のタイミング、作業時間が一つの iPad で分かるため、iPad を持ち運ぶことで生徒の作業意欲が向上し、行動・作業につながりができたように感じる。

また、行動したり、作業したりした本時の体験を写真等で記録に残し、授業の最後に教師に iPad を見せながら言葉と同時に報告させることで本人の経験として蓄積され、次時（将来）へつなげることができたように感じる。

・エビデンス（具体的数値など）

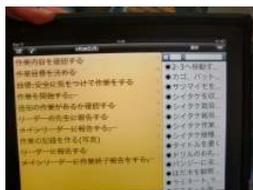
iPad 活用前に比べ、生徒からの「先生、次は何ををするのですか。」等の発言や行動が止まる回数が減少し、教師が支援する回数が少なくなった。

・その他エピソード（画像などを含めて）

農場で使用するため、土や水から守るための木製の iPad 専用ケースを作成した（図1）。



図1：作成した木製ケース



「shop-shop」で作業全体の見通し、作業内容、作業目標、報告・連絡・相談のタイミングを作成。



本時の作業の様子を「Photo-sort」で整理・管理し、授業の最後に教師に見せながら作業報告。

